



強い雇用が示されると思うが。。。

2014年2月6日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

藤代 宏一

TEL 03-5221-4523

15:42 現在

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	14155.12	-25.26
N Y ダウ	15,440.23	-5.01
D A X (独)	9,116.32	-11.59
FTSE100 (英)	6,457.89	8.62
CAC40 (仏)	4,117.79	0.34

<外国為替>※

ドル円	101.43 円	-0.02 円
ユーロドル	1.3518 ドル	-0.00 ドル

<長期金利>※

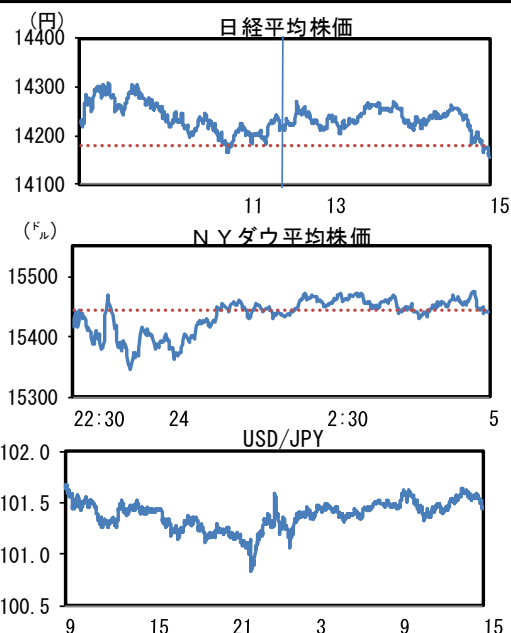
日本	0.610 %	0.01 %
米国	2.668 %	0.04 %
英国	2.689 %	-0.01 %
ドイツ	1.636 %	-0.01 %
フランス	2.227 %	-0.00 %
イタリア	3.761 %	-0.02 %
スペイン	3.718 %	-0.04 %

<商品>

N Y 原油	97.38 ドル	0.19 ドル
N Y 金	1257.30 ドル	5.60 ドル

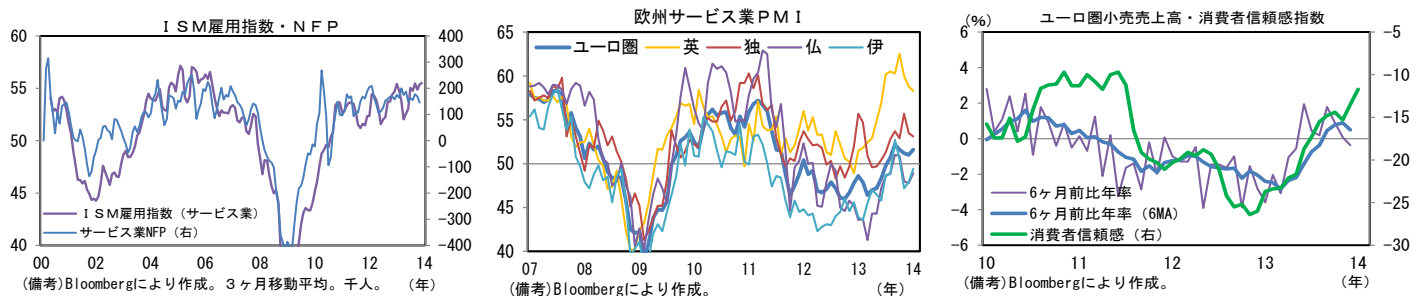
※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg



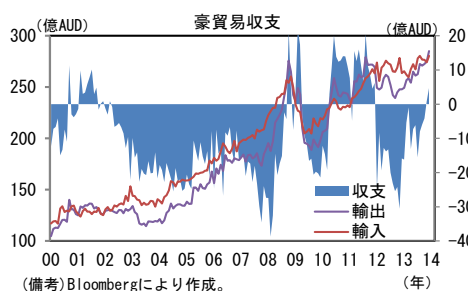
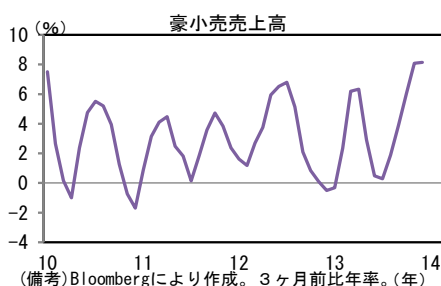
【海外株式市場・経済指標他】 ～ I S M雇用指数は「強い雇用」を示唆～

- ・ N Y ダウ平均株価は前日比▲5.1ドルの15440.23ドルで取引を終了。26週移動平均を意識して下げ止まりか。
- ・ 1月 I S M非製造業景況指数は54.0と市場予想 (53.7) を上回り、前月 (53.0) から改善。活動指数 (54.3→56.3)、新規受注 (50.4→50.9) が反発。雇用 (55.6→56.4) は約3年ぶりの高水準に到達。
- ・ 1月米サービス業PMI (Markit) は56.7と前月 (55.7) から改善。活動指数が全体を押し上げたが、雇用 (55.2→54.2) は高水準から僅かに低下。もっとも雇用も均してみれば基調は上向いており、懸念される材料ではない。発表元のMarkitは今回の結果を受けて「N F Pが20万人ペースに回帰する」としている。
- ・ 1月ユーロ圏PMI (総) は52.9と前月 (53.2) から横ばいを見込んでいた市場予想を下回った。もっとも4Q平均 (51.9) は上回っており、1Qが順調なスタートになったことを示唆している。サービス業PMIは51.6と前月 (51.9) から悪化。前月との比較ではドイツが悪化 (53.5→53.1)、フランス (48.6→48.9)、イタリア (47.9→49.4)、スペイン (54.2→54.9) は改善。
- ・ 英サービス業PMIは58.3と予想 (59.0) に反して前月 (58.8) から悪化した。3ヶ月連続のモメンタム鈍化になるが、高水準であることに変化はなく、依然として内需が堅調であることを示している。
- ・ 12月ユーロ圏小売売上高は前月比▲1.6%と、前月の急増を割りいても、やや失望的な内容。4Qは年率▲2.7%に沈んだ。もっとも、消費者信頼感指数の力強い動きは先行きの個人消費が安定的に増加することを示唆しており、増加基調そのものは維持される見込み。



【外国為替相場・債券市場】～豪貿易収支は黒字に～

- 5日の海外時間、米金利は上昇したもののUSDが強含む動きにはならず、主要通貨は方向感に乏しい展開。USD/JPYは一時101を割れたが、次第に切り返した。6日日本時間では、12月豪小売売上高が前月比+0.5%と市場予想に一致。一方、12月豪貿易収支は▲2億AUDの赤字予想に反して4.68万AUDの黒字。前月分も黒字に修正され、事後的に2ヶ月連続の黒字が実現。AUDは急反発。USD/JPYは101.50まで戻した。
- 米10年金利は+3.8bpの2.668%。欧州時間は金利低下となっていたが、ISMとADPをノーサプライズで通過すると上昇に転じた。欧州債市場は全般的に堅調。GIIPS10年金利の対独スプレッドはタイトニング。



【国内株式市場・経済指標他】～個人が下値を固めよう～

- 日経平均株価は前日比▲25.26円の14155.12円で取引を終了。朝高後、オーバーナイトリスクから後場軟調。
- 1月に海外投資家は1.2兆円の売り越しを記録した一方、個人投資家は1.4兆円の買い越しを記録した。個人投資家の押し目買い意欲は強いとみられ、この傾向が継続することで下値は徐々に固められるとみる。

【注目点】～強い雇用が示されると思うが。。。～

- 1月ADP雇用統計は17.5万人と市場予想（18.5万人）は下回ったが、3MAでは23.0万人と堅調。BLS雇用統計の3MAがADPレベルに到達するならば、1月実績は37.5万人になる。さすがにこれは現実的ではないが、新規失業保険申請件数、ISMサービスの雇用指数、CB消費者信頼感指数の結果を踏まえると、11月雇用統計並みの数字（24.1万人）が出てきても不思議ではない。「天候要因が色濃くでない限り」という前提付にはなるが、市場予想（18.3万人）に上振れリスクがあるように感じられる。とはいえ、ノイズが無くとも振れが大きいのが雇用統計。上下どちらの方向にもサプライズがあり得る点は注意しておきたい。
- ECB理事会では金融政策の現状維持が決定されよう（Bloomberg調査では66名中の4名が利下げを予想）。当社欧州担当は①物価が1%を下回って推移しているが、これは当初からECBが予想していたこと、②PMIなど各種経済指標が実体経済の底堅さを示唆していることを理由に挙げている。一方で、これまでドラギ総裁が市場の意表を突くことでサプライズを演出してきた経緯を踏まえると、2月に利下げがあったとしても不思議ではないとも指摘している。3月CPIの鈍化が予想されていることも、ECBの背中を押すかもしれない。利下げの場合、初期反応はEUR安が濃厚。

